第40回日本フィッション・トラック研究会実施報告

末岡　茂

第40回日本フィッション・トラック研究会は，2016年3月4日（金）～6日（日）の3日間に亘って，石川県金沢市のしいのき迎賓館3F セミナールームBにて開催されました．ここ数回恒例になっているように，今回もESR応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会となりました．研究会に先立って，香港大学のLi Sheng-Hua先生による特別講義2件が行われ，α線の基礎や，長石のOSL年代測定における信号のfadingへの対策について，包括的に解説していただきました。研究発表会は，I：環境科学への応用，II：石英，III：炭酸塩・硫酸塩，IV：熱年代学，V：計測技術，VI：ESR計測応用，VII：断層，VIII：火山岩の8つのセッションに分けて，31件の口頭発表と2件のポスター展示が催されました。そのうち，1/3超に当たる12件が学生による発表でしたが，卒論や修論の提出直後の時期ということもあり，よく練られた力作ぞろいだったように思いました（質疑で詰まって指導教員が代わりに答えるという場面も時折見られたのはご愛嬌ですが）。また，2日目のプログラム終了後には，竹内太郎さんによる，古楽器（ギター）の演奏会が催され，時間ならぬ年代を忘れた優美なひと時を堪能することができました。

研究会の準備と開催にあたっては，金沢大学の長谷部徳子先生，田村明弘さん，および学生の皆さんには，大変お世話になりました。金沢での研究会開催は，2009年以来でしたが，前回は郊外の金沢大学キャンパス内，今回は繁華街の迎賓館ということで，前回参加された方も，また違った金沢の魅力を味わえたのではないでしょうか。なお次年度は，奈良女子大の松岡由貴先生のお世話により，奈良にて合同研究会の開催を予定しています。

2016年度からは，FT研究会の運営形態を大幅に刷新することになりました。すなわち，ESR研やルミ研と同じく，会費の徴収やニュースレター冊子の配布を原則廃止し，名簿の代わりにメーリングリスト（FTML）で会員の管理を行うという形態になりました。これにより，さらに気軽に入会できるようになりましたので，学生の方や専門以外の方など，これまでFT研究会には関心がありつつも入会には躊躇していた方も，会員になっていただけることを願っています（会員の方は，周囲への宣伝よろしくお願いいたします）。

出席者（所属）：
藤原泰誠（岡山理科大学），福田将眞（京都大学），鴈澤好博（北海道教育大学），長谷部徳子（金沢大学），早坂　怜（金沢大学），平林沙織（京都大学），兵部真紀（奈良女子大学），伊藤久敏（電力中央研究所），伊藤一充（産総研），岩野英樹（京都FT），菊池龍太（北海道教育大学），衣川公太郎（金沢大学），北田奈央子

（地域地盤環境研究所），小林　航（北陸電力），Li Sheng-Hua（香港大学），松岡由貴（奈良女子大学），三浦知督（金沢大学），水田幸男（（株）JEOL RESONANCE），村橋美香（岡山理科大学），村上雅紀（応用地質），蜷川清隆（岡山理科大学），西村　進（京都自然史研究所），西戸裕嗣（岡山理科大学），能美草太（岡山理科大学），小畑直也（蒜山地質年代学研究所），小形　学（金沢大学），Patricia Zazo Piziki（金沢大学），坂之上聖史（大阪大学），佐久間　幹（地球科学総合研究所），佐々木　碧（北海道教育大学），佐々木高宗（北海道教育大学），柴田省吾（北海道教育大学），島田愛子（（株）JEOL RESONANCE），白井香奈江（丹沢T探究会），空増　昇（ナノグレイ），末岡　茂（原子力機構），田上高広（京都大学），高田将志（奈良女子大学），竹内圭史（産総研），竹内太郎（ケンブリッジ大学），田村明弘（金沢大学），谷　篤史（大阪大学），徳安佳代子（原子力機構），豊田　新（岡山理科大学），塚本すみ子（ライプニッツ協会応用地球科学研究所），山田隆二（防災科研），山本洋祐（金沢大学），山中 千博（大阪大学），山﨑誠子（産総研），Horst Zwingmann（京都大学）
（計50名，敬称略，アルファベット順）

第40回フィッション・トラック研究会総会報告

2016年3月10日

文責：末岡　茂

1. 普通会員10名の出席と委任状9名分が得られたことから，普通会員1/5以上の出席および委任状をもって，総会は成立した．
2. 今年度の会員異動，活動報告について報告した．
3. 2014年度の会計報告，会計監査報告を行い，承認された．
4. 来年度の執行部体制は現執行部から，山崎誠子氏をHP担当に，伊藤久敏氏を庶務に変更して臨むことが提案され，承認された．
5. FT研執行部とは別に，Thermo2024を日本で開催することになった場合，田上高広氏と長谷部徳子氏を対応役とする方針について合意された．
6. 2016年度の活動計画を提示し，承認された．
7. 会費の無料化と，FTニュースレターの冊子配布の原則廃止（希望者に実費で配布）が提案され，承認された．
8. 会費の無料化に伴い，学生会員を普通会員に統合することが提案され，承認された．賛助会員については従来通りとし，寄付金は一口10,000円とした．
9. 会員の名簿管理の廃止と，それに代わるメーリングリストによる会員管理が提案され，承認された．
10. 7.～9.に係る会則の変更が提案され，総会出席者2/3以上の賛成により承認された．

以下の9名の方々からは総会に関わる委任状をいただきました．ご協力いただき，ありがとうございました．猪又　竜，加藤孝幸，檀原　徹，檀原有吾，星　博幸，北田奈緒子，松浦秀治，森本祐一郎，山崎誠子（五十音順，敬称略）

日本フィッション・トラック研究会会則

(1994年12月4日改正, 2003年12月12日一部改正，2009年12月4日一部改正，2016年3月5日一部改正)

1. 本会は日本フィッション・トラック研究会と称する.
2. 本会はフィッション・トラック法及びこれに関連する学問の進歩のために随時次の事業を行う.

   (1) 研究会発表および討論会の開催 (2) フィッション・トラック ニュースレターの発行 (3) その他
3. 本会に次の役員を置く.

   会長 1名, 委員 若干名, 会計監査 1名, 幹事 若干名

   会長及び委員は総会により選出される. 会計監査および幹事は会長が委託する. 会長及び委員の任期は原則2年とする.
4. 会長は本会を代表し, 委員とともに会の運営にあたる. 会計監査は会の会計を監査する.
5. 総会は会長が召集し, 少なくとも年1回開催する. 総会の成立は普通会員の1/5以上の出席 (委任状を含む) を要する.
6. 会員は普通会員, 賛助会員とする.

   普通会員は，MLにメールアドレスを登録しているものとする.

   賛助会員は本会の目的を賛助する団体または個人.

   会費は, 普通会員は無料とする.

   賛助会員からの寄付金は，一口10,000円とする.

付則

1. 本会の事務局は会長のもとにおく.
2. 会計年度は, 4月1日に始まって, 3月末日に終わる.
3. 本会への入会（退会）は会長への申請により行い, メーリングリストへの登録（除名）をもって承認されたものとする.
4. 会則の変更には, 総会における全出席者の2/3以上の賛成を要する.
5. フィッション・トラック ニュースレターへの投稿規定は別に定める.

フィッション・トラック ニュースレター 投稿規定 (1997年8月1日改正, 2013年4月1日一部改正)

総則

(1) 本会会員または本会会員に紹介された非会員はニュースレターに投稿することができる.

(2) 原稿は編集委員会に提出するものとし, 編集委員会は受け取った原稿の受付年月日を記録し, 原稿を保管する.

(3) 編集委員会は必要に応じて, 会員または非会員に原稿の査読を依頼し, また著者に修正を求めることができる.

(4) ニュースレターに掲載の著作物の著作権は本会に帰属する.

細則

(1) 掲載内容はフィッション・トラックに関連する幅広い分野を対象とする.

(2) 掲載内容の種類を以下の通りとする.

(a) 論説: オリジナルな研究論文で内容の主要な部分が学術論文として, 他に印刷発表されていないもの.

(b) 総説: ある分野に関して既存論文や学説などを総括・解説したもの.

(c) 研究ノート: 技術, 手法, 術語などについての報告または紹介.

(d) 日本フィッション・トラック研究会が開催・主催・共催した講演会などにおける講演内容をまとめたもの（Proceedings, Extended abstractsなど）.

(e) その他必要と思われるもの.

(3) 論説・総説・研究ノートに関しては, 複数の専門家による査読を行う.

(4) 原稿の書き方・提出方法・刷り上がりページ数の制限などについては, 別途定める.

FTニュースレター投稿要領（２０１６年）

１．発行は，２０１６年９月頃を予定しています．
　本号より冊子版による配布は原則廃止となり，Web上でのPDF版のみの公開となります．

２．原稿の締切りは，２０１６年７月中旬とします．
投稿される予定の方は早めに，掲載内容の種類（論説／総説／研究ノート／講演要旨／その他），タイトル，著者，刷り上り予定ページなどを編集委員（田村：aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp）までお知らせください．またその都合によっては，〆切を延期することもあり得ますのでご相談ください．
論説／総説／研究ノートにつきましては，査読を行います．

３．投稿原稿（論説／総説／研究ノート／講演要旨／その他）のスタイルの詳細につきましては，
　次の通りとします．

・文体，句読点，引用文献形式等の詳細は，添付書類および過去のFTNLをご参考ください．

　過去のFTNLの論文や講演要旨は以下からご覧いただけます．
　http://ftrgj.org/index.html

タイトル・著者・所属は日本語および英語でお願いします．

・投稿原稿は，
　テキスト（タイトル・著者・所属・本文・図のキャプションなど）：Word/Pages等のワープロソフト
　　＊＊＊「図表はWord/Pagesファイル中に挿入しないでください」
　図表は，以下の通りとしますが必要ならばご相談ください．
　　図：PDF形式またはTIFF形式
　　表：PDF形式を推奨（TIFF形式やEXCEL形式でも可）
　　＊テキストファイルとは必ず別にする
　　＊PDF版はカラーとなります．
　　＊サイズの目安，幅の上限
　　１段の場合，6.7cm，2.6inch，800pixel
　　２段の場合，15cm，5.9inch，1750pixel
　　以上の条件ではっきりと読むことができること

◯研究会の講演要旨（Proceedings, Extended abstractsなど）につきましては以下のようにします．
　＊刷り上りページ数は４ページ（A４サイズ）を目処とします．
　　それ以上の分量になりそうな場合は，できるだけ論説，総説あるいは研究ノートなどとしてご投稿ください．
　＊提出していただいた原稿は，編集委員会で簡単な査読を行います．内容やレイアウトの変更を求める場合もありますので，予めご了承ください．
　＊基本的には段組等レイアウトの必要はありませんが，希望するレイアウトがある場合はお送りいただけると幸いです．

原稿作成・編集作業等に関しまして，質問等ありましたら遠慮なくどうぞ．
FTNL編集委員：金沢大学　田村明弘（email: aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp）